

2014年11月7日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松本 悟

フィリピン国 ミンダナオ島南部地域回廊補修事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時 2014年10月24日(金)14:03~17:10
- ・場所: JICA 本部(112会議室)
- ・ワーキンググループ委員: 石田委員、塩田委員、二宮委員、松本委員
- ・議題: フィリピン国 ミンダナオ島南部地域回廊補修事業ドラフトファイナルレポート(DFR)に対する助言案作成
- ・配布資料:
 - 1) フィリピン国 ミンダナオ島南部地域回廊補修事業事前配布資料
 - 2) 補足資料
- ・適用ガイドライン: 国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第53回委員会)

- ・日時: 2014年11月7日(金) 14:30~18:02
- ・場所: JICA 本部(会議室: 1階 113会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. マスタープランによって、都市交通に関する計画を策定中であることを FR に記述すること。
2. 調査項目のうち、水、大気、騒音以外に規制規準値が設定されているかどうかを確認し、設定されている場合は規準値及び予測値を FR に記載した上で評価を行うこと。

スコーピング・マトリックス

3. ミンダナオにおけるフィリピン・イーグルの分布と本事業の路線図の位置関係が詳細に分かる地図を FR に掲載すること。
4. 河岸に生息する両生類への影響を緩和する対策について、FR の環境管理計画に追記すること。
5. FR のベースライン及び予測結果の表において、非自発的住民移転、貧困層、地域経済の記載を RAP の結果に合わせて修正すること。
6. 水利用の緩和策としての沈殿池がデング熱を媒介するネタイシマカの生息に繋がらないよう FR に記述すること。
7. イスラム住民への配慮内容について FR に記述すること。

環境配慮

8. 液状化が発生しやすい軟弱地盤の地域では、詳細設計段階において、地盤調査によるチェックを行う必要がある旨、FR に記述すること。
9. 詳細設計段階において、振動に関する予測評価を行う必要がある旨、FR に記述すること。
10. Designated disposal site について、詳細設計の段階で施設の大幅な拡張あるいは新設がある場合には、それに対する必要な環境社会配慮を行うようフィ国政府に申し入れること。

社会配慮

11. FR の非自発的住民移転の記述について、過去に不十分な移転地環境、就労機会の喪失、またプロフェッショナルな圧力団体による組織化等によって生じた訴訟や申し立ての経緯を出来る限り紹介し、その結果を踏まえたものとする。
12. 非自発的住民移転や貧困層の項目として、オペレーションの段階での生計回復策を緩和手段として FR に記述すること。
13. 和平合意後の政治的動向を注視しながら、本件が利害対立の場にならない

よう慎重にモニタリングを行う必要性を FR に記述すること。

14. FR の環境モニタリングフォームの中に移転後の生活や生計のモニタリング内容を記述すること。
15. 住居が影響を受ける世帯および土地所有者全員のプロジェクトへの合意状況を FR に記述すること。
16. 農地など生計手段を失う世帯に対する代替地等の提供について、FR に明確に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

17. ステークホルダー協議において、質問者に対する回答が質問者の了解を得られているかどうかも含めて、FR に記述すること。
18. 本事業において今後行われるステークホルダー協議では、バランガイ職員・バランガイ議員以外の住民のより多くの参加をフィ国政府に求めること。
19. ステークホルダー協議の開催場所を FR に追記すること。
20. RAP 及びその説明資料が何語で作成されたかを FR に記述すること。

その他

21. FR において、目次と各内容の項目名が一致するよう記述すること。

以 上